
月村と神凧と夜の一族と 中編

十字架

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月村と神風と夜の一族と 中編

【コード】

N2806Q

【作者名】

十字架

【あらすじ】

前編の続きになります

(前書き)

出会って少し経ってからのお話・・・

京 「今日もいい天気だなあ・・・」

寝転びながら空を見て言う

京 「全く、士郎さんには感謝しなくちゃな」

そう実は京はずずかの事が好きなのだ

京 「（初めてはずずかを見たのは始業式の日か、あの時から俺はずずかに一目惚れしてるんだよなあ）」

と、青空を見ながら思いにふけていた京であった

キーンコーンカーンコーン

す 「やっとお昼休みかあ」

ア 「はずずか、お昼どうする?」

す 「私はお弁当だよ」

ア 「あたしもよ、何処で食べる?」

す 「そうだね、たまには屋上で食べようっか」

ア 「でも屋上入れないわよ?」

す 「大丈夫だよ、この前京くんに合鍵貰ったから」

ア 「なら大丈夫ね、それにしてもほんと京のやつ授業が始まる前に消えるわね」

す 「確かに、気付いたらいなくなってるからちよっと寂しいな・・・」

ア 「まあいいわ、屋上にいきましょう」

す 「うん、行こっか」

屋上・・・・・・・・・・

ア 「それにしても今日は暖かいわねえ」

す 「そうだねえ・・・ん？」

ア 「どうしたの？すずか」

す 「うん、誰がいるなあっと思って」

ア 「誰よ？」

す 「わかんないよ、あっち向いて寝てるし、どうする？場所変える？」

ア 「でもここまで来て場所変えるのはなんかむかつくわね」

す 「そんなこと言っても・・・あ」

ア 「どうしたのよ？」

す 「この鍵持ってるってことはあれ・・・」

ア 「あ、なるほど間違いないわね」

す 「うん 起こして一緒にお昼食べよ」

ア 「あんた・・・京ってわかった瞬間テンション上がったわね」

す 「そ、そんなことないよ／＼」

ア 「まあいいわ、さすが、さっさと京を起こしてきなさい」

す 「はい」

ア 「全く・・・」

す 「京くん、お昼だよ？起きて一緒に食べよ」

京 「すーすー」

す 「もう、京くんってば」

ゆちゆち

京 「ううん、すー」

す 「もう起きてってば」

ゆさゆさ

京 「……………」

す 「起きた？」

京 「……オレヲオコストハイドキョウダ……………シヌカ
クゴハデキテルンダロウナ……………」

す 「え？き……京くん？」

ア 「すずか、まだ起きないって、やつちやったか……………」

す 「え？なに？どうしたの?!」

ア 「士郎さんが言ってたこと忘れたの？」

す 「士郎さん？」

ア 「そうよ……思い出してみなさい」

す 「えつと……………」

す 「何があっても寝ている京は起こすなだっけ？」

ア 「そうよ……そして起こしてしまった場合の対処法は？」

す 「確か……逃げるのは無理だからなんとかしてもう一度寝か
せる……だっけ？」

ア 「正解・・・問題はこの暴走してる京をどつちやって寝かせるかよ」

す 「ん？簡単だよ？こつすればいいの！」

ア 「ちよつとすずか、何いきなり寝転がってるのよー！」

す 「いいからいいから、京くん、おいで？」

寝転んだすずかが腕を伸ばして腕をたたくと・・・

京 「・・・・・・・・・・・・・・・・」

京 「すーすー」

ア 「ね・・・寝た？」

す 「うん こつすればいいって桃子さんに教わったんだ」

ア 「だからって・・・あんた恥ずかしくないの？」

す 「//////////」

ア 「嬉しさと恥ずかしさ半分つとところね」

す 「//////////言わないで//////////」

ア 「」とこるでどつちやってお昼食べるのよ？寝たままなんて言わないでしょ？」

す 「うん そろそろだと思っただけだなあ」

ア 「何が？」

す 「見てればわかるよ」

京 「すーうん……ん？」

す 「あ！やつと起きたね」

京 「……すずか？」

す 「そっだよ おはよ、京くん」

京 「……／／／／／ボンッ」

す 「あらら」

ア 「状況を理解して恥ずかしさのあまり爆発って……何処の漫画よ」

す 「ほら、京くん、起きてよう」

京 「ハッ、わ、悪い、すずか！俺またやっちゃまったのか／／／」

す 「ううん、大丈夫だよ、それに私も……ゴニョゴニョ」

京 「ん？何か言ったか？」

す 「はう！な、なんでもないよ！それよりお昼一緒に食べよ！」

京 「ああ、悪い購買行つて何か買ってくるわ」

す 「それなら私達のお弁当わけてあげるよ、いいよね？アリサちゃん？」

ア 「別に構わないわよ」

京 「ならありがたくいただきます」

す 「どうぞどうぞ」

ア 「そういえばさすが、今日の放課後暇？」

す 「今日？大丈夫だよ？どうかしたの？」

ア 「ならさ、何処か遊びに行かない？」

す 「うん、いいよ 何処行く？」

ア 「そうねえ・・・買い物はこの前行ったから何処に行こうかしら」

す 「ならさ、京くんの家に行かない？」

ア 「京の？あたしは別に構わないけど」

す 「京くん、今日遊びに行つていい？」

京 「ん？別に構わんが？」

す 「やった 京くんがどんな所に住んでるか前から気になってたんだあ」

ア 「それはあたしも気になってたわ、どうせいつのことだから散らかってるんでしょうが・・・」

京 「む、失礼な、ちゃんと片付けてるぞ」

ア 「どうかしらねえ」

す 「行ってからのお楽しみってやつだね」

京 「変な期待はしないでくれよ、それと俺ん家は遊ぶ物とかないぞ？」

ア 「なら適当に持っていくわ」

京 「ならいいが」

キーンコーンカーンコーン

す 「あ、予鈴だね、教室行こっか？」

ア 「そうね、あなたはどうすんの？」

京 「寝る」

す 「それじゃあ放課後はお家で待っててね」

京 「了解」

ア 「行くわよすずか」

す 「うん、また後でね、京くん」

京 「おう、また後でな」

ギイイイイバタン

京 「さて、寝るか」

そのころすずか達はと言つと・・・

す 「どどどどどどどどどうしようアリサちゃん!!!!!!!!!!!!!!」

ア 「あんたってば・・・自分で言つたくせにいきなりどうしたのよ?」

す 「だって京くんの家だよ?!?!初めて行くんだよ?!?!!!!!!!」

ア 「だからなによ・・・」

す 「どんな服装がいいかな?!ドレスかな?!」

ア 「ちよつと落ち着きなさい!!--」

す 「はう!!--」

ア 「こんなんじゃない京と付き合ったら呆れられるわよ?」

す 「京くと付き合ったら・・・えへへ／／／」

ア 「よだれ垂れてるわよ、すずか」

す 「は!いけないいけない」

ア 「最近あんた変わったわね・・・」

す 「そう?」

ア 「そうよ、前ならそんな風によだれ垂らして妄想なんてしなかつたくせに・・・」

す 「うう／／／」

ア 「まあいいわ、それだけ好きなんですよ?」

す 「うん／／／」

ア 「なら今日告白しちやいなさい!」

す 「む、無理だよ!恥ずかしいし・・・それに・・・」

ア 「それに?」

す 「一族の事も話してないし・・・」

す 「へ？証拠？」

ア 「そ、告白しなかったら・・・だめ!!!!絶対にだめ!!!!!!
!京くんだけは絶対に誰にも渡さない!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」・・・
これを京に聞かせるだけよ」

す 「あ、アリサちゃん！」

ア 「さーて、放課後が楽しみね」

す 「もう・・・いじわるなんだから／＼／」

ア 「あ、それと」

す 「どうしたの？」

ア 「あたしが京の事好きなのは本当だからね んじゃ先行ってる
わよ!」

す 「え?ええええええええ!!!!!!」

後編に続く・・・

(後書き)

やってしまった・・・アリサを乱入させてしまった・・・
だが反省はしているが後悔はしていない!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2806q/>

月村と神凧と夜の一族と 中編

2011年1月26日03時31分発行